2008年3月1日発行　早 蕨　第419号（昭和62年2月21日第三種郵便物認可）

さわらび
ホームページ　http://www.sawarabi.or.jp

みんなの力でみんなの幸せを

sawarabi

さわらび

3
March
2008
vol.419

医学講話▶「地球温暖化と感染症ー新興・輸入感染症」
福祉村病院　院長　小 橋 修

特　集▶障害者雇用の現状とさわらび会での取り組み

医学講話

「地球温暖化と感染症 ―新興・輸入感染症」

福祉村病院　院長
小橋　修

地球温暖化問題の世界的な啓蒙活動で、ノーベル平和賞を受賞したアル・ゴアのドキュメンタリー『不都合な真実』は衝撃をもって受け止められた。ゴアはアメリカ全土を光ケーブルで結ぶ情報スーパーハイウェイ構想、一九九五年感染症のサーベイランスの世界ネットワーク、ナノテクノロジーが世界的に注目されるきっかけ等を作ったことでも知られている。

さて、東南アジアでは鳥インフルエンザ（H5N1）が猛威を振るい、ヒトに感染し、新型インフルエンザとしてヒトからヒトへの感染のチャンスを虎視眈々と狙っている。戦争やテロより怖い二十一世紀の脅威だとしてワクチンと薬の開発が急ピッチで進んでいる。出来るだけ感染を拡げないために、米国では、人前でくしゃみするときはチリ紙で鼻を覆って、手をしっかり洗うようにしなさい。そうしないと他人にうつす危険があるという「咳エチケット」を徹底して教育するなど、サブプライム危機以上に深刻に受け止められている。

これまで知られていなかった感染症（新興感染症）

ñ一九八一年のエイズ騒動。サンフランシスコの同性愛者に始まり、今では中国、インドなどにも爆発的に拡がりつつある。異性間性行為や出産時の母子感染によって、アフリカでは一部族が消滅してしまったほどで、日本にも深く潜行し拡大しつつある。

ñ一九九二年、インド南部に始まりわずか半年余りで全土に拡がり、数十万人以上の患者を出した新型コレラO139は、南米アメリカに飛び火したあと、三年の間に南アメリカ全土に拡がった。

ñ一九九五年、コンゴ民主共和国で、当時世界を震撼させたエボラ出血熱、二〇〇二年から二〇〇五年の間に約五五〇〇匹のゴリラが死亡しており、住民はゴリラやサルなどの野生動物を食用とする習慣があったので、人に流行し、いまだ死者が出ている。

»ñ二〇〇二年、中国広東省に死亡率の高いコロナウイルスによる新型肺炎サーズが発生し、二〇〇三年七月までに八千人強が感染し、七七五人が死亡した。感染者が飛行機でカナダに入国したため、瞬く間に大流行した記憶はまだ新しい。次第に病原性が弱くなっていることは感染症の興味深い点である。

かつて騒がれたO157と現在騒がれているノロウイルス感染性胃腸炎

ñ一九九六年、堺市で学校給食による集団感染を起こした病原性大腸菌の一種O157は患者八千名弱、死者三名を出したが、今なお日本中に蔓延している。

ñ毎年十月に流行が始まり、一～二月をピークとする下痢、嘔吐をもたらすノロウイルスは絶えず変異をし流行を繰り返している。一、二日で症状はなくなり回復するが、それ以後一週間くらいはウイルスを便から排出する。猛烈に強い伝染力をもち家中に感染し、簡単に院内に拡がっ

てしまう。嘔吐による窒息と脱水に対する適切な処置さえすれば怖くない胃腸炎であるが社会的損失は大きい。感染は必ず病院の外から持ち込まれるので、持ち込まないことが感染症の基本。

ñ熱帯、亜熱帯地域ではコレラ、赤痢、病原大腸菌等による胃腸炎で五歳未満の子供が毎年数百万人死亡、地球の温暖化でこれらの感染症が徐々に北上し日本にも迫っている。

蚊が媒介する感染症と輸入感染症

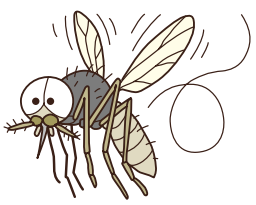
ñ一九九九年、ニューヨーク市で突然カラスが大量に死んだ。蚊が媒介するウエストナイル熱（脳炎）で、六二人の患者と七人の死者を出したが、その後も毎年流行地域を米中部、南部にと拡大し、二〇〇二年には中部から西部に拡がり、四一五六人の患者と二八四人の死者を出した。昨年も流行は更に拡大し、届けられた患者数は約九八〇〇人、死者は二六二人に達した。二〇〇三年末までの五年間で、全米の患者数は一四一六三人、死亡者数は五六四人。貨物とともに蚊が移動するため、ただちに蚊の駆除の大作戦が陸と空から始められたが、蚊の生息地を閉じ込めることは出来ず、三年以内にアメリカ合衆国全土に拡がった。

ñマラリアはマラリア原虫に感染した蚊によって媒介され、世界で最も感染者と死亡者の多い感染症。地球の温暖化によってマラリア原虫を持った蚊が、輸送経路の海と陸、空からいつでも侵入できるので、水際作戦ではとても防ぎきれない。もっとも大きなインパクトは温暖化で、エチオピアは温暖化につれ急速に蚊が生息をはじめ、マラリアが発生し始めた。

ñ日本脳炎も蚊が媒介し、ワクチンがあるので日本ではあまり問題にならないが、東南アジアでは大問題。温暖化で日本でも大流行するに違いない。

ñヒト―蚊―ヒト、サル―蚊―サルの様式で熱帯シマカが伝播するデングウイルスも台湾まで北上していて日本上陸目前。メス蚊に刺されると、三～十日間の潜伏期の後に、全身の不快感や倦怠感から、突然の発熱、頭痛、全身の筋肉痛がほぼ同時に出現。七日ほどで解熱するが、発疹の多くは発熱の後半期に出現。デング熱は自然治癒傾向が強いが、再度刺されると、生体が猛烈に反応して血小板減少による出血症状を伴ったデング出血熱となり、致死率は数％。流行地は東南アジア、中南米など熱帯地域で、年間数百万人の患者が出て数万人が死亡している。熱帯地方は感染症の温床で、地球の温暖化によって生態系が急速に変わり、感染症も様変わりしつつある。

かつて、南北アメリカの先住民が西欧人と交流をはじめた途端、麻疹が大流行し、免疫のなかった土着民の半数近くが死亡、また天然痘患者の膿を塗った毛布を善意と称してインディアンに配り、部族を半数近く殺したヨーロッパ移民によるバイオテロ、それまで経験していなかった病原体がひとたび免疫のない土地に入り込むと、瞬く間に流行し、しかも死亡率が高いのが感染症の大きな特徴。ペットの無断輸入や、勝手に捨てる行為は、地球の温暖化のなかでは大変危険な行為。新型インフルエンザに対する備えも危機感も薄い日本は、眼に見えない危険にさらされている。これまでどんなに怖い感染症でも発病しなかった人や、発病しても軽くすんだ人がいたことは、感染症の重要な特徴で人類にとっての救いだが、新しい治療法を見つけること以上に、出来るだけ感染症の根源を撲滅することと感染症にかからないように予防することが大切である。



長寿医学研究所

研究通信

news of study

Vol. 3

福祉村病院　長寿医学研究所　副所長

赤津　裕康

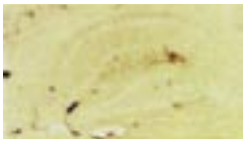
白の分解に関する仕事の紹介をさせていただきます。

アルツハイマー病の主要病変である老人斑を形成するβアミロイド蛋白（Aβ）は、アミノ酸が四十二個で出来たもの（Aβ1－42）が脳に溜まってくるとその形成が促進されると考えられています。このAβ1－42が分解できるとアルツハイマー病を予防できる可能性があります。道川先生と我々はその分解にアンギオテンシン変換酵素（ACE）が関与する事を見出しました。

ACEは高血圧に関連するアンギオテンシンIを分解してアンギオテンシンIIを形成する酵素として世に知られ、ACE阻害薬は広く降圧薬として臨床応用されています。

このACEは脳内にも存在し、Aβ1－42をアミノ酸四十個のAβ1－40に分解する作用があることが解りました。実際にこのACEの酵素作用を抑えるACE阻害薬を飲ませたアルツハイマー病モデル動物にはAβ1－42を多く含む老人斑が形成されました。この共同研究では、我々、福祉村ブレインバンクで保管させていただいているアルツハイマー病患者さんの病理解剖脳とアルツハイマー病でない方の脳とを比べ、ACEの遺伝子・蛋白量がアルツハイマー病の方で低下していることが解かりました。

この仕事は広く降圧薬として服用されているACE阻害薬の作用を問い直す可能性があるため、さらに慎重に仕事を進めていく必要がありますが、逆に脳内のACE活性を高めることでアルツハイマー病の治療や予防に繋がる可能性のある重要な仕事になっていくものと思っています。



●ACE阻害薬を飲んでいないアルツハイマーマウス

●ACE阻害薬を飲んだアルツハイマーマウス

ACE阻害薬を飲んだマウスに茶色の染み（老人斑）がたくさん見えます。

【共同研究紹介】

今回は大府にある国立長寿医療センター研究所　アルツハイマー研究部　部長　道川　誠先生との共同研究の一つをご紹介いたします。

道川先生はアルツハイマー病の脂質代謝領域での日本の第一人者です。二〇〇六年よりお仕事をご一緒させていただき、先生のお力で厚生科学研究班の分担研究者にも加えていただきました（これにより多大な公的研究費を分担研究費と言う形でいただいております）。

今回は脂質研究ではありませんが、昨年明らかになったアルツハイマー病の原因物質とされるアミロイド蛋

福祉村保育園だより

福祉村保育園では、季節の行事をとても大切にしています。二月は、鬼の面をみんなで作ったり豆をまいたりと、節分の行事を楽しみました。

鬼は外!! 福は内!!

インド福祉村病院　教育ホール落成式

「さわらび」読者の皆さん
「カーハル・チャルバー」

日本の今頃は寒いでしょうね。ここインドは寒さもだいぶ和らいできました。寒い日で最低気温は七度まで下がりましたが、今は十三度位です。しかし、日中は暖かく二十度前後です。

皆さん「お元気ですか」。これをヒンディ語では「カーハル・チャルバー」と言います。そして、「元気です」と言うのは「ティク・バー」と言います。寒い事を「タンダー」と言い、逆に暑いことを「ガルミィ」と言います。

現在、ここインド福祉村病院を拠点にし、保健衛生事業を展開しています。その一端をご紹介したいと思います。まだ、始まったばかりで多くのことを進めておりませんがよろしくお願いします。

◆妊婦指導

現在、Dr.グプタの指導で毎週一回、病院において実施しています。今までに約四十人程が参加しています。延べにすればもっと多くなります。その内容は、食事指導、日常の注意、検診の必要性などです。村民の生活は苦しく、栄養摂取も悪く、検診もなかなか受けられません。又、女性は重要な働き手となっておりますが、軽作業も困難です。早産も多く、この村ではありませんが先日、早産で九百グラムで生まれ死産しました。

ＪＩＣＡ資金で写真の母子手帳（四十頁余）を作成し、現在配布しているところです。

又、妊婦体操のチラシ、画像指導を作成しましたので、今後これらも活用したいと考えています。この活動が村近辺まで広がり、活用できればと考えています。

◆衛生指導

この活動はまだ十分ではありませんが、正月に日本人ボランティアが病院に来られ、子供達に「手洗い」指導をして頂きました。ビデオを使い病院待合室にテレビを設置し患者さんたちに紹介しています。しかし、公共電気は停電が多く、発電機を動かさないとテレビも写りません。通電の日に見られます。

その他、紙芝居がありますので今後これを活用する予定です。この紙芝居はヒンディ語と日本語で書いてあるものです。又、結核予防のチラシと画像紹介の作成が終わったところです。

◆教育ホール

ＪＩＣＡ資金で以上の活動をする場として、教育ホールを建築しました。この二月十五日に完成したばかりです。ＪＩＣＡの佐々木さん、ＷＶＳの柴田理事、現地の統括医師を迎え、村民も約二百人参加の中で盛大に開かれました。

このホールを今後活用し、以上紹介した内容を一層進める決意です。皆様の今後とも一層の活動支援をお願いし、報告させていただきます。

（現地責任者　加藤伸也）

●あいさつをする柴田理事とグプタ院長

●落成式に参加してくれた村民のみなさん

1 あいちグループホームスタッフ研修会に参加して

一月二十・二十一日、蒲郡市三谷温泉にて「あいちグループホームスタッフ研修会」が開催されました。さわらび会のグループホームスタッフ、あかね荘障害者生活支援センター職員も研修企画スタッフとして参加しました。

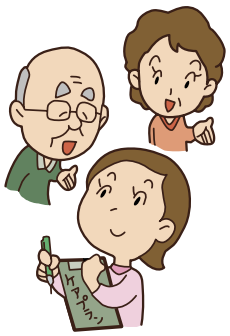
障害者自立支援法が施行され一年が過ぎ、職員にとっては、振り返ると法律に振り回された数年間でした。今回の研修では、もう一度原点に戻り、「より質の高いサービスを提供するには」「本人を中心とした計画作りとは」に重点を置いた研修を企画しました。

「本人を中心としたケアプラン作り」においては、地域活動支援センター「なのはな」の利用者一名、田原市障害者生活支援センターのピアカウンセラー一名も参加し、日頃の生活、現在困っていること、将来の夢等を語ってくれました。当事者の皆さんが参加することにより、思いに耳を傾け、寄り添った支援が出来ることを実感しました。

「来年度も当事者の皆さんと共に研修会を盛り上げていきたい」という参加者の皆さんの声で研修を終えることが出来ました。参加された当事者の声を紹介します。（池田）

今回、グループホーム研修会に参加させてもらい、その中で皆さんが私たちのことについてたくさんの意見を出し合ってくれました。今まで私たちの中で考えていなかったことや、新しい発見ができ、とても勉強になりました。

まだまだ私たちは仕事や生活面でもできないことがたくさんあります。少しでも成長していけたらいいと思います。夢に向かってこれからも頑張ります。



2 障害福祉圏域ネットワーク作り

障害福祉の分野では支援費制度以降福祉サービスの利用に際しては契約制度となり、利用者が自由に福祉サービスを選び、組み立てが出来るようになりました。一人の利用者が複数の福祉サービスを利用する中、事業者側も対応が必要となります。そのキーワードがネットワークという事になります。

しかし障害者の福祉ニーズの幅は広く、市町村の枠を超えてサービスを利用される方も多く存在します。その為、現在では障害保健福祉圏域単位でのネットワーク作りが重要視されはじめています。

現在、豊橋市・田原市などの東三河南部圏域の一定の福祉ネットワークが出来上がり機能し始めています。しかし、ひとたび市町村を超えた連携と言うことを考えた時、この圏域ではまだまだ未熟な部分ばかりです。隣の市町村の福祉サービスの状況をお互いがほとんど知らないという状況にあります。

この圏域の相談支援アドバイザーとしてこの垣根を越える試みとして東三河事務所健康福祉課に協力を頂いて「東三河南部障害保健福祉圏域相談支援事業所連絡会議」をこの一月に開催しました。

圏域の相談支援事業所が一同に集まり、初めて顔を会わせる方も多くとまどいもありましたが、お互いの事業所の情報を交換する中、自立支援協議会の問題、困難事例の問題等共通の話題について有意義な話し合いが行われました。

お互いの市町村の情報を交換する中、その良いところを取り入れ、自分の市町村に活かすという事がネットワークの基本でもあると思います。この会議は定例化してゆく予定であり、この会議の中から自然に必要なネットワークの形が見えてくる、そんなお手伝いを今後も精一杯がんばって行きたいと思います。

（東三河南部圏域相談支援アドバイザー　江川）

「勉強がしたい」通信教育で学んだ心理学 3

珠藻荘利用者　加藤　悦代

珠藻荘で生活されている加藤さんは身体に重度の障害があり、声を出すこと、ページをめくることができません。そのため、携帯電話を利用して原稿を作っていただきました。八ヶ月に渡る心理学の講座を無事に終了されたので、ここに本人のコメントを紹介します。

八年前から、心理学に興味がありました。どうしたら、勉強ができるのかな。心理学の勉強のやり方がわかりませんでした。

二年前に、ある介護士さんが通信教育で心理学の勉強をやってみないかと言ってくれました。でも私は迷いました。続けられるのかと心の葛藤があったけど、手伝ってもらうように頼んでやってみることに決めました。

なぜ、私が心理学の勉強をやりたかったかと言いますと、私は言葉が話せないから、自分の気持ちを相手に伝えるのが難しいからです。

言葉は人を喜ばせたり、励ましたり、その逆もあります。怒らせたり、悲しんだりです。

それから、人と話をしていても、相手がどういうことを言って欲しいかわかるようになりました。

心理学で学んだことを役立てていきたいなと思っています。

二人三脚でがんばりました。

まちづくり出前講座 4

まちづくり出前講座」とは市民のみなさまのご注文に応じ、市役所の仕事やまちづくりのことなどのお話を、自治会や子供会などで実施する会合やイベント、学校の授業などに、その名の通り市職員が出向いて、講座を開くものです。市役所の各課から提示されたメニューから市民が選んで参加するというスタイルで、メニューも豊富にあります。市政・健康・保健・環境・産業・防災等のそれぞれの情報を伝える内容となります。

今回は豊橋市からの依頼を受け、豊橋市立つつじヶ丘小学校の三年生に「障害者への理解」をテーマに、私自身の今までの経験や珠藻荘の利用者の生活を伝えてきました。対象者が三年生なので簡単に分かりやすく話すことを心がけました。つつじヶ丘小学校は福祉についての勉強をされているようで、その為か私に対する視線もとても真剣で、最後までしっかりと話を聞いてくれていたことがとても嬉しく感じました。また、最後に生徒からの質問に答えたのですが素朴な質問が多く、障害者への理解の第一歩になったのではないかと思います。

小学生の頃から障害を持つ人と接することは大切ですし、小学生という小さい子供達だからこそ、素直に障害者を受け入れることが出来るのではないかと感じられた「出前講座」でした。

今後も子供達に「障害があってもしっかりと生きている」「みんなと何も変わらない」ということを伝えてゆきたいと思います。（田中）

特集

障害者雇用の現状とさわらび会での取り組み

福祉村には、障害を持つ方が大勢おみえになります。同時に、福祉村は障害を持つ方の働く場ともなっており、その働く姿を目にすることもあるかと思います。障害を持っていても健常者と同様に、就労を通して社会参加したいと考えている方は大勢いらっしゃいます。

私たちさわらび会は、障害者の方への就労支援を積極的に行っています。そこで今回は、障害者就労の現状を踏まえて、働くということについていろいろと考えてみたいと思います。

障害者雇用の現状

障害者の雇用状況は依然として厳しくなっています。事業主側には「障害」への理解が薄く、どう対処したらよいか分からないと言う意見があるようです。よって障害者にとっては、働きたくても働けない状態が続いていると言えます。そのような障害者雇用の状況に対処すべく、「障害者雇用促進法」が制定されています。

この法律は、身体障害者又は知的障害者の特性に応じ、その能力に適合する職業に就くことができるよう、雇用環境を整備するように定められています。障害者の雇用については、事業主の法的義務とされています。

また、この法律において、事業主の法的義務の範囲を具体的にあらわすものが法定雇用率であり、「常用雇用労働者数」が五十六人以上の一般事業主は、その「常用雇用労働者数」の一・八%以上の身体障害者又は知的障害者を雇用しなければなりません。

平成十八年四月の法改正によって、精神障害者も法定雇用率加算の対象となり、平成十九年六月現在、一般企業における実雇用率は一・五五%（厚生労働省調べ）と、基準にはまだ達していないのが現状です。

さわらび会の障害者雇用

さわらび会は、障害者雇用を積極的に行っています。具体的には、クリーニング工場や、各施設の事務員、また清掃員として三十名近くの方が就労されています。実際にさわらび会で就労している当事者の声を紹介します。

働くことの意義

珠藻荘　副施設長　**田中　力**

私は現在、さわらび会の珠藻荘で仕事をさせていただいています。仕事をすることで責任感やプライドが回復されました。また、仕事を継続するために自分自身でも生活をしっかりと見つめ、健康管理や金銭、安全といったことに注意するようになりました。

「働くこと」はどんな人達にとってもとても大切なことで、ましてや、障害者の方々にとっては「働くこと」の意義はとても大きいと思います。

働くことは、収入を得る喜びだけでなく、障害がある自分でも能力を発揮できる、それを評価してもらえるという満足感・充実感を得られます。

障害者が働くためには様々な支援が必要な場合もあります。通勤手段やトイレ等の環境面、そして何よりも障害への理解がなければ本人がどれだけ努力をしても労働の継続が出来ません。

さわらび会では多くの障害者を雇用しています。これは福祉村といった環境も大きく雇用につながっていると思いますが、障害者が働くことの意義や障害者を専門的に理解しているからだと思います。

●あかね荘　事務員　塩野谷さん

クリーニングセンターで働く息子 ～母親の思い～

児童施設から成人施設への移行を考えなければならなかった時、あかね荘グループホームへの入居が決まりました。息子は自閉症で「こだわり」があり、コミュニケーションがうまくとれません。この子は一生「就職」することは難しいだろうと思い過ごしてきました。

しかし、入居後、クリーニングセンターという「働く場所」も与えていただきました。息子のクリーニングセンターでの仕事は、オムツをたたんだり、洗濯をすることです。働き始めた頃は「こだわり」も強く皆さんに迷惑ばかりかけ、何度頭を下げたことやら。しかし、クリーニングセンターの職員の皆さんは、時間をかけ「こだわり」を上手に仕事にいかせるようにまでしていただけました。ほんとうにありがたく思っています。今では仕事がとても楽しみで「あなたの仕事はなんですか」と尋ねると「オムツポンポン　いってきます」と元気よく答えてくれます。息子を通じて働くことの大切さを教えられた気がします。

福祉村という重度の障害者にとっての環境面の良さ、そして職員のみなさんの受け入れ体制が、息子をここまで育ててくれたことと感謝の気持ちでいっぱいです。

●クリーニングセンターでの就労風景

さわらび会の就労支援

また、さわらび会では、地域の一般企業への就労を目指した就労支援も行っています。

障害を持つ方は、自分で就職活動をしていくことが難しいこともあり、「就労支援」という視点が極めて重要で、障害者の雇用の場の確保とあわせて、これまで以上のきめ細かな就職活動のサポートや、就労後のフォローなどの支援が必要であるといえます。

明日香で行った支援の一例ですが、三年前に就職したAさんが、ストレスなどが原因で仕事を休みがちになっていました。

そこで、本人から話を聞いたりアドバイスすることで、Aさんはまた元気に通い始めることが出来るようになりました。

支援する私たちは、何人を就職させたかということにとらわれ過ぎず、就職を通して障害者の幸せを含めて支援していくことが大切だと考えています。

（編集スタッフ）

最高のチーム！ 最高のチームメート！

左近選手のルノー入りが決定!!

左近選手 ルノーF1チーム加入発表 日本列島を熱く駆け巡る

ルノーF1チーム（ING Renault F1 Team）に、山本左近選手がテストディベロップメントドライバーとして加入することが2008年2月に発表され、近年稀に見る寒波が吹き荒れる日本各地を熱く駆け巡った。

05年、06年とルノーF1チームでワールドチャンピオンに輝いたフェルナンド・アロンソ選手も再加入し、今期は本気でワールドチャンピオンを目指せるチームとなった。

左近選手の積み重ねた豊富な経験と実績

左近選手のこれまでの豊富な経験と実績はF1関係者の間でも高い評価を得ており、遂にF1界のトップチームをも動かした。

ルノーF1チームのブリアトーレ代表は「積極的な開発プログラムを行う為、左近選手のF1での経験はとても役立つ」と左近選手に最大級の評価を表している。

今期の左近選手はワールドチャンピオンになる為のマシン開発という極めて重要な任務に就くこととなった。さらなる高みを目指す飛躍の年となることは間違いない。

左近選手のこれまでの活躍

左近選手のこれまでの軌跡にはいつも驚きと感動があった。

1994年、鈴鹿カートレーシングスクールに入校、華々しいレーサー人生の出発点となった。

スクール入学後めきめき頭角を現し、カート地方選手権、全日本選手権でチャンピオンに輝く。

2001年、全日本F3選手権に参戦、安定した走りで高い評価を各レース関係者から受ける。

2002年、ドイツF3選手権に参戦。幼い頃からの夢である「F1ドライバー」を常に意識し、舞台を海外に移してもさらなる挑戦を続けた。

2003年、F3ユーロシリーズに参戦。世界にその名を響かせた。

2004年、再び母国日本で、全日本F3選手権に参戦し、ヨーロッパで鍛えた腕前を存分に披露した。

■ルノー公式ホームページ
http://www.ing-renaultf1.com

２００５年、日本レースの最高峰、フォーミュラ・ニッポンとスーパー・ＧＴの両方に参戦。日本レース界を代表するトップドライバーへと駆け上がった。

夢のＦ１ドライバーへ

そして２００５年10月、遂に念願の夢であった「Ｆ１レーサー」となる。

夢のステージはＦ１日本グランプリ。ジョーダン・トヨタからサードドライバーとしてＦ１デビューを果たす。レギュラードライバーより速いタイムを叩き出し、新聞でも「日本の超新星」として紹介された。

２００６年、フォーミュラ・ニッポンとスーパー・ＧＴに参戦していたが、シーズン途中から再びＦ１の舞台に戻る。スーパーアグリＦ１チームからレギュラードライバーとしてＦ１参戦。

ハンガリー・トルコ・イタリア・ベルギー・日本・中国・ブラジルと世界各地を転戦。中でも特筆すべきは最終戦ブラジルＧＰで、第二計測区間であのＭ・シューマッハに次ぐ2番手のタイムを叩き出し、チーム関係者やレース関係者を驚愕させ、来年度以降のさらなる活躍を期待させてシーズンを終了した。

２００７年、ＧＰ２でヨーロッパで活躍し、シーズン途中よりスパイカーＦ１チームからレギュラードライバーとしてＦ１参戦となった。スパイカーＦ１チームの低迷する成績を挽回する為、左近選手は日本ＧＰを始めとする数々のレースでマシンのパフォーマンスを最大限に引き出し、大活躍の内にシーズンを終了した。

そして２００８年、遂にＦ１トップチームのルノーＦ１チームに移籍し、ワールドチャンピオンになる為の重要な戦力となった。

これまで確実にステップアップしてきた左近選手。今年の活躍に期待が膨らむ。

1994

鈴鹿カートスクールに入校
１９９９にはＪＦＡ全日本カート競技選手権ＦＡクラスシリーズチャンピオン獲得

2001

全日本Ｆ３選手権トムスより参戦
日本人最高位のシリーズ４位　新人賞獲得

2002

ドイツＦ３選手権参戦
２００３にはＦ３ユーロシリーズ参戦

2004

全日本Ｆ３選手権参戦
最終戦にて優勝

2005

スーパーＧＴ５００参戦
第４戦優勝

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン参戦　第８戦２位

ジョーダンのグランプリ・チームから日本ＧＰでＦ１デビュー

2006

スーパーアグリＦ１チームからレギュラードライバーとして参戦

2007

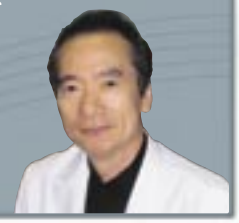
ＢＣＮコンペティションからＧＰ２参戦。スパイカーＦ１チームからＦ１参戦

● Photo／IMAHARA Taro（TIPP）

俳句浪漫

直筆の書で季節を彩る

ジュゲム施設長・東京大学客員研究員
金井 芳之



立春の前日、即ち二月三日を節分と称することに変りない。この日の夕暮れ時、柊(ひいらぎ)の枝に鰯(いわし)の頭を刺し、戸口に立てて「鬼は外、福は内」と大声を出しながら、炒った大豆を力強く撒く風習が古くからあった。千葉県の成田市にある新勝寺の豆撒きはとりわけ有名で、知名度の高い年男や東西の大きな横綱が小さな豆を撒く姿はなんとも滑稽であった。情けないことに、今年は日本人の横綱が誕生しないものだから、モンゴル出身の東西横綱が揃って豆撒きをした。一般家庭でもマンション住まいや、核家族化しているため、節分の風習が薄れ、威勢の良い豆撒きの声も聴かれなくなって来ている。各家庭で手軽に出来る伝統行事が年々薄れて行くのはなんとも侘びしいことである。

さわらび日記

（H20・1・16～2・15）

■福祉村病院・ジュゲム

1月18日 名古屋市緑保健所主催の認知症予防教室にて伊苅弘之副院長が「認知症の予防」について講演
21日 ジュゲム監査
22日 朝食情報交換会
25日 豊橋市社会福祉協議会主催の介護者教室にて伊苅弘之副院長が「認知症の介護」について講演
28日 市役所障害福祉課より生活保護に関する調査
31日 橋詰先生によるCPC（理事長出席）
2月1日 早蕨編集会議（理事長出席）
3日 尾張旭市主催の福祉大会にて伊苅弘之副院長が「認知症の予防」について講演
5日 さわらび大学運営委員会（理事長出席）
10日 大口町社会福祉協議会主催の認知症予防講演会にて伊苅弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12日 ジュゲム幹部会
14日 名古屋市社会福祉協議会主催のなごやかスタッフ研修会にて伊苅弘之副院長が「ホームヘルパーのための認知症介護こんな時どうする」について講演
15日 病院幹部会（理事長出席）

■さわらび荘

1月16日 災害活動ボランティア・ヘルパー合同研修（光部 つつじが丘地域福祉センター）
18日 圏域ケア会議（松下・浅見・石川・渡辺憲 つつじが丘地域福祉センター）
21日 全国老施協認知症介護実践者研修～25日（鈴木富 名古屋）
22日 愛知県老施協施設長会議・臨時総会（施設長 名古屋）
愛介連ケアマネ部会（白井 名古屋）
高齢者虐待対応研修（松下 岡崎）
23日 在宅医療福祉部会議（施設長・藤原・松下・白井・渡辺憲 ジュゲム）
全国老施協女性フォーラム～24日（中尾 東京）
介護支援専門員研修交流会（鳥山・本江 つつじが丘地域福祉センター）
25日 はりはら運営推進会議
包括職種別ケア会議（石川 つつじが丘地域福祉センター）
28日 豊橋市介護保険事業者連絡会（白井・浅見・本江・鳥山・石川 ライフポートとよはし）

2月5日 老人福祉施設主任職員研修（小清水 名古屋）
6日 包括職種別ケア会議（松下 赤岩荘）
県社協調理員研修（村上 名古屋）
包括職種別会議（浅見 つつじが丘地域福祉センター）
7日 GH全国大会実行委員会（施設長 名古屋）
第4回運動機能向上に関する検討会（松下 市役所）
13日 介護給付審査会（施設長 市役所）
14日 新城大谷大学実習指導者懇談会（藤原 新城）
15日 GH研修会（村田 名古屋）
はりはら豊橋市ヒアリング
30日 愛老協介護士研修（河辺 名古屋）
GH協役員会（施設長 名古屋）

■第二さわらび荘・カサ デ ローザ

1月15日 社団法人全国老施協正副会長・委員長拡大会議（山本施設長 東京）
21日 社団法人全国老施協認知症介護実践研修～25日（白井 名古屋）
22日 朝食情報交換会（山本施設長 福祉村）
愛老協施設長会議・臨時総会（山本施設長、奈良施設長 名古屋）
23日 女性フォーラム（山本施設長、奈良施設長、鈴木、金子 東京～24日）
30日 軽費老人ホーム・ケアハウス職員研修会（奈良施設長 豊橋）
31日 愛老協介護福祉士養成校との懇談会（山本施設長 名古屋）

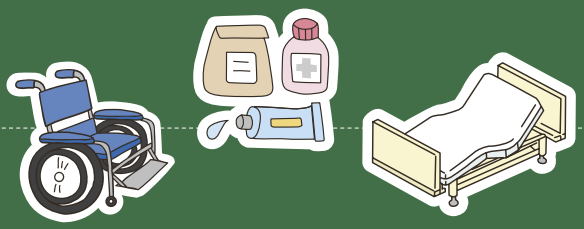
2月4日 社団法人全国老施協正副会長委員長会議・中田清氏祝賀激励会（山本施設長 東京）
5日 愛知県社協老人福祉施設主任職員研修（長坂 名古屋）
6日 社団法人全国老施協会計研修（浦野 東京～7日）
7日 国保連介護給付費審査委員会（山本施設長 名古屋）
認定審査会（長坂 市役所）
愛老協調理員研修（高橋 長久手）
12日 豊橋市介護保険関係事業者等連絡会運営委員会（山本施設長 市役所）

さわらび大学公開講座案内

☆参加費無料で
どなたでも受講できます

4月よりさわらび大学を再開いたします。多くのみなさんのお越しをお待ちしております。

- ●4月10日㈭　看護の基礎「高齢者の看護」
  講師►福祉村病院　総看護師長　山本 淑子
- ●4月24日㈭　介護の基礎「障害者の介護」
  講師►障害者支援施設　珠藻荘　介護士長　小原 正敏
- ●5月 8日㈭　ベッドサイドのリハビリ
  講師►福祉村病院　リハビリテーション部長　理学療法士
  榊原 利夫
- ●5月22日㈭　心のカウンセリング
  講師►福祉村病院長寿医学研究所　所長　堀　映
- ●6月12日㈭　急変時の処置
  講師►福祉村病院　看護部教育委員　看護主任　村井 孝枝
- ●6月26日㈭　感染症予防について
  講師►福祉村病院　院長　小橋　修



さわらび大学の開催

時　間◉第2・4木曜日、午後3時～4時
会　場◉福祉村病院会議室

尚、都合により日程及び講座が変更となることもございますのでご了承ください。

◉お問い合わせ・受講申し込み
軽費老人ホーム若菜荘
☎ (0532)48−1138　FAX (0532)48−2365

■珠藻荘
1月16日 東三河南部圏域相談支援事業所連絡会（施設長）
自治会役員会
17日 精神障害者の地域移行に関する説明及び意見交換会（施設長・松井）
18日 障害者（児）福祉施設直接処遇職員中級研修（金子　名古屋）
23日 自治会
女性フォーラム（鈴木　東京）
30日 地域生活支援推進研究会議（田中・山本　東京）
2月1日 障害者（児）福祉施設主任職員研修（井上　名古屋）
5日 愛知県障害者相談支援アドバイザー会議（施設長　名古屋）
まちづくり出前講座（田中　つつじが丘小学校）
7日 愛知県相談支援従事者指導者研修意見交換会（松井）
13日 副安全運転管理者講習会（河合）
自治会役員会

■若菜荘
1月16日 全国老施協施設推進委員会ワーキングチーム会議（東京　施設長）
18日 若菜会自治会活動日
22日 県老施協施設長会議（施設長　名古屋）
24日 喫茶なかよし
29日 誕生会
30日 軽費　ケア職員研修会（施設長　坂牧　豊橋商工会議所　安立）
2月1日 各階別会議
節分豆まき
4日 食生活会議
6日 若菜会役員会
8日 若菜会地域活動日
14日 喫茶なかよし

■あかね荘
1月22日 主任会議
23日 女性フォーラム（池田　東京　～24日）
28日 援助会議
29日 理容奉仕（浅倉さん）
2月7日 主任会議
8日 指導監査
14日 保健所監査

■明日香
1月16日 東三セルプ施設長会議（施設長）
19日 介護支援専門員研修（鈴木陽　名古屋）
22日 サービス管理責任者研修（鈴木陽　名古屋　～23日）
介護支援専門員研修（吉元　名古屋）
23日 女性フォーラム（藤井陽　東京　～24日）
29日 介護支援専門員研修（鈴木陽・吉元　名古屋）
2月1日 ボーリング大会
家族懇談会
3日 東三セルプ共同研修会
4日 障害者ホームヘルパー研修（彦坂　名古屋）
7日 愛知県セルプ施設見学研修（堀部　名古屋）
8日 障害者ホームヘルパー研修（中神）
自治会
13日 サービス管理責任者研修（～14日　山本　名古屋）

■しろがね
2月5日 さなえ会おやつ奉仕

■各施設共通
1月16日 さわらび会在宅医療福祉部会
22日 朝食情報交換会
25日 さわらび会障害者担当会議
共同防災会議
2月5日 さわらび大学運営委員会
14日 栄養士会議

いかり先生の

「お遍路さん」

～四国八十八ヶ所めぐり～

第20回

爪彫り薬師と弥生の桜

福祉村病院　副院長
伊苅弘之

第二十七番神峯寺から第二十八番法界山大日寺まで安芸市から南国市に向かって土佐くろしお鉄道沿いの海岸線を北上すること四十キロ。徒歩で十時間、自動車でも一時間以上かかる。道中、土佐の国の三月二十二日は暖かい。

大日寺は町外れの三宝山西麓の丘陵にある。本尊は大日如来。弘法大師が訪れたとき、楠の大木に爪で薬師如来を刻み、奥の院に安置した。この「爪彫り薬師」は首から上（目、耳、鼻、口など）の病に霊験があるといわれ信仰を集めている。「弘法大師は彫刻刀を忘れても大丈夫だね。うらやましいよう。」と小三の娘。

門をくぐると静かで落ち着いたたずまいである。けばけばした色彩はなく閑静な空間が広がる。正面に本堂、右手に大師堂、左手にはたくさんの石仏、そして本堂の前の庭にしだれ桜が咲いていた。「きれいな桜だね。でも、もう桜が咲くの、おかしいよ、早すぎるよ。」と中一の娘。「今年は二回桜を見させてもらえる。ありがたいね。」と母。土佐の国には尾張の国よりひと足早く桜前線が上陸していた。

認知症介護のワンポイントアドバイス

Vol. 1

◆人形療法

認知症の方は個人差はありますが表情が乏しく口数が少なくなる方が沢山みえるようです。そのような認知症の方のケアの方法論のひとつとして、今回人形療法について取り上げてみたいと思います。

人形を抱いた時に、赤ちゃんを腕に抱いていた幸せな感情を蘇らせてくれると同時に、親として子を守り育ててきた記憶につながり、認知症の進行とともに失われてきた自信や役割を取り戻すきっかけになることを期待して行うものです。

認知症は記憶障害を伴うことが多いですが、「感触」や「感情」という原初的な感覚は忘れずに残っている場合が多いのです。従って人形は出来る限り本物の赤ちゃんそっくりの感触を持つものを導入するのがポイントになります。現在は良い人形が店頭に並んでいます。

第二さわらび荘でも人形療法を導入してみました。

本当に赤ちゃんをお世話するように話しかけ抱っこしたり、ご飯を食べさせようとしたりと日頃落ち着かない方でも椅子に座っていることが出来たり、話しかけることで発語が増えるなど優しく接していただけました。女性の方だけでなく男性の方にも好評で「子は鎹（カスガイ）」を実感致しました。このように人形と接することで「お世話をしたい」という意欲や役割づくりを引き出すきっかけとなり、コミュニケーション機会の充実になるようです。皆さんも如何でしょうか。

（長坂）

さわらび会後援会 寄附ご芳名
H20・1・15～2・14

伍千円
弐萬円
壱萬六千円
壱萬円
伍千円
伍千円
参萬円
壱千円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
壱萬円
四千円
壱萬円
壱萬円
壱萬円

その他匿名希望多数の方よりご寄附頂きました。

計　**弐拾弐萬六壱千円**

現在までにご寄附いただきました金額は　**八億壱千九百六拾伍萬弐千四百壱拾円**

インド福祉村協会 寄附ご芳名
H20・1・15～2・14

八千九百円
参千円
参千円
参千円
参千円
参千円
参千円
参千円
参千円
伍萬円
参千円
六千円
伍千円
伍千円
壱萬円
壱千円
伍千円
弐千円
弐千円

計　**壱拾弐萬弐千九百円**

募金方法（インド福祉村）

■振込先
郵便振替・郵便振込　口座番号
〇〇八三〇―二―六五〇〇八
インド福祉村協会

■連絡先　軽費老人ホーム若菜荘
℡〇五三―二四八―一一三八まで

お礼コーナー
ありがとうございました

※印は豊橋善意銀行を通して

▼オー エスジー様
バスケットボールリーグチケット※

（明日香）

℠雪の福祉村
（2008.2.9撮影：小橋 修）

さわらび会のわ リレーコラム Vol.2

福祉村病院　放射線科長
川合 宏始

いやはや困ったものだ。胃袋に入れる物を容易に買い物かごに入れられない。事前の産地確認。これとて本当かどうか。

「医食同源」は発想元の「薬食同源」を日本でアレンジされ広まったとされているが、その本家本元の「食」である農水産物に、昭和三〇～四〇年代の日本における「公害」という水質、大気、土壌などの汚染による悪夢が思い起こされ不安が募る。

輸入大国日本の食料自給率は今や三九％で先進国ではとても低い国である。「先進国？」。いいや、もはや食料後進国かも。

一方、中米のコスタリカは六〇年前に軍隊を廃止し、その予算を全て福祉と教育に充て、その結果内戦のない自然環境が豊かで、国民に笑顔の絶えない奇跡の国となった。

今回の「食」の不正、不安を機にそろそろ諸工業や建設、防衛などに有利な政策を見直し、「医」に直結する「食」、即ち第一次産業や福祉、教育の方向にもう少しバランスよくシフトしてもらえないものだろうか。中米の楽園、コスタリカのように。

単純明快！行きつくところ、人は車やパソコンはなくとも生きられる。だが食料がなくては生きられないのだから。

次回は、障害者支援施設珠藻荘事務員　黒柳晴彦さんです。

春の訪れ

骨折で入院した時、自力歩行はむずかしいと医師から言われたが、立って歩くことが出来たことの喜びを表しました。

俳句●春川 ヨシさん（軽費老人ホーム若菜荘）

みんなの力でみんなの幸せを

2008年3月1日発行　早蕨　第419号
（昭和62年2月21日第三種郵便物認可）

充実した医療と福祉

- 特別養護老人ホーム **さわらび荘** ☎(0532)54-3501
- 特別養護老人ホーム **第二さわらび荘**
- ケアハウス **カサ デ ローザ** ☎(0532)37-1209
- 軽費老人ホーム **若菜荘** ☎(0532)48-1138
- 障害者支援施設 **珠藻荘** ☎(0532)47-1050
- 知的障害者更生施設 **あかね荘** ☎(0532)48-2825
- **福祉村病院** ☎(0532)46-7511
- 知的障害者授産施設 **明日香** ☎(0532)46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 **しろがね** ☎(0532)48-1032
- **福祉コンビニ**（東雲町） ☎(0532)69-5666
- **第二福祉コンビニ弥生** ☎(0532)38-9090
- **さわらび会障害者居宅介護事業所 田原** ☎(0531)24-0722
- 福祉村老人保健施設 **ジュゲム** ☎(0532)46-7501
- **田原市障害者生活支援センター**（市委託） ☎(0531)45-3828

社会福祉法人 医療法人 **さわらび会**

編集責任者：武田和敏　　印刷：共和印刷㈱　　定価：100円

■表紙裏表紙写真：春の渥美半島

編集後記

二十歳以上ではなく、十八歳以上の国民に与えるとした国民投票の投票権をうけてか、現在二十歳となっている成人年齢を十八歳に引き下げることが検討されているようだ。成人年齢の引き下げには賛否両論あるようだが、日本では江戸時代、大人と認められる元服は数えで十五歳。成人年齢が満二十歳となったのは一八七六年、明治政府が出した「太政官布告」からである。こんなにも長く成人年齢が変わっていないことも意外ではあったが、はたして江戸時代の十五歳と今の二十歳ではどちらが大人と呼ぶにふさわしいだろうか？いずれにしても法制審議会は約一年がかりで結論を出すようである。

（武田）